

健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 自己評価シート

プラン名	たにぐみ山づくりプロジェクト（岩坂峠）				作成日	20 年 11 月 18 日			
実施方法	☒ 単独 ☐ JV		所属	揖斐郡森林組合		記入者	長谷川政弘		
プロジェクトの対象・目的・内容	対象（誰を、何を）		目的（どういう状態にしたいのか）						
	揖斐地域では、もっともヒノキの割合や蓄積も大きく、地形も緩やかな谷汲地域の森林を対象		安らぎと潤いのある森林づくり、採算性のある森林づくりを実施し、生活に密着したいつでも山に入れる山づくりを推進するとともに、組合の林産体制づくりの契機としたい。						
事業内容（どのような方法で、何を行うのか）	事業内容（どのような方法で、何を行うのか）								
	森林所有者に施業提案し、施業を集約化し事業ロットを拡大し、必要最低限の幅員（2.5～3.0m）で、森林内の樹冠が空くことを最低限におさえて、作業路を開設して林内路網密度を高め、小型の高性能林業機械を使用して木材生産性・採算性を高めることを実践し、実証していく。また、郡内他地域の見本となる山を作り、地域全体で展開し、災害に強い山造りを目指す。								
事業期間	平成 19 年度 ～ 平成 23 年度（ 5 年間）								
事業費 / 年度	モデル団地への国・県・市町村補助金投入額（平成19年度決算） ※職員人件費を除く								
	森林整備関係	搬出補助関係	機械導入関係	治山関係	保安林整備関係	その他			
予算執行額（千円）	7,072.5	315.0	16,674.0	0.0	0.0	678.9			
財源内訳	国・県費	6,809.5	315.0	7,940.0		678.9			
	市町村費	131.5		1,588.0					
	一般財源								
	その他	131.5		7,146.0					
事業実績	成 果 指 標		単位	19年度		20年度			
				計画	実績	計画	進捗		
	① 施業集約化	ha	63.7	130.5	338.1	45.0			
	② 植栽	ha	0.0	0.0	0.0	0.0			
	③ 下刈・除伐	ha	4.8		5.7	0.0			
	④ 切捨間伐	ha	12.5	18.6	20.9	11.4			
	⑤ 利用間伐	ha	9.5	7.9	32.0	14.5			
	⑥ 主伐	ha	0.0	0.0	0.0	0.0			
	⑦ 作業道開設（延長） w= 2.5 / 3.6 m	m	700 / 0	610 / 0	1,710 / 0	408 / 0			
	⑧ 作業道開設（開設コスト） w= 2.5 / 3.6 m	円/m	2,000 /	1,710 /	1,800 /	1,805 /			
	⑨ 木材生産量（モデル団地内）	m ³	669.0	291.5	1,350.0	852.3			
	⑩ 木材生産量（モデル団地外）	m ³	140.0	1,104.0	890.0	556.3			
	⑪ 木材生産性	m ³ /人日	2.5	2.4	3.7	4.5			
	⑫ 木材生産コスト（伐採～積込まで）	円/m ³	14,584	13,438	13,780	9,857			
	⑬ 高性能林業機械導入	台	1	1	0	0			
	⑭ 伐採専門チーム養成	チーム	1	1	0	0			
	⑮ 枝打ち	ha	4.8	0.0	5.1	0.0			
	⑯ 森林施業プランナーの育成	名	2名	研修出席（2名）事例発表	適宜	ステップアップ研修3名			
	⑰ 定点観測写真撮影	箇所	各箇所	定点観測写真撮影（年1箇所）	適宜	準備中			
	⑱ 地元森林所有者視察見学会	回	地元見学会（年1回）	地元見学会（年1回）	随時	12月4日開催予定			
	⑲ 地域へのPR	回	町広報にて記事掲載	町広報にて記事掲載	町広報、委員会	町広報、委員会			
	⑳ 揖斐川町森林づくり推進会議との連携	回	・町委員会報告、現地説明各1回	・町委員会報告、現地説明各1回	現地説明会1回	現地説明会1回			
	(21) 森林組合だよりにて実施状況説明	回	年4回	3回、各2500部	年4回	2回掲載			
	(22) 森林所有者台帳の作成	部	作成	作成中	作成	作成中			
	(23) 未整備森林対策	ha	18.6	18.6	15.0	0.6			
	(24) 揖斐開設指針作成	部	作成中	作成中	完成	作成中			
	(25) 揖斐チャレンジ（関連する森プロ地域内に限定しない前向きな取り組み） ① 森プロ全般関係	回	実施体制強化	職員会議報告（7回）、日吉取組アンケート（16名）	実施体制強化	継続			
	(26) ② 道関係（手続きの効率化）	件	効率化	許認可7件実施	効率化	まとめて手続き			
	(27) （揖斐開設指針作成）	部	作成	作成中	作成中	作成中			
	(28) ③ 林産関係（技術指導研修）	回	技術向上	技術検討会（2/13）	技術向上	12/2調査、12/3検討会			
	(29) （残存木の減少）	回	実施	残存木保護具試作・試用・評価	実施	継続			
	(30) （有利採材検討）	回	実施	システム販売、有利採材研修7/23	実施	継続			
	(31) ④ トレサビ関係	回	地域材利用促進	証明材・地域材利用研修9/12	地域材利用促進	継続			
(32) ⑤ 小径木加工場関係	回	小径木有効利用	間伐材利用研修工場直売検討	小径木有効利用	継続				
(33) ⑥ レゴリスボード場関係	回	バイオマス有効利用促進	商品開発・営業活動積極の実施	バイオマス有効利用促進	検討中				
補足説明	・揖斐地域全体での林産事業地の検討を進めている。（機関造林・私有林共） ・組織内での取り組みが波及するよう内部研修を随時行っている。								

	【 自 己 評 価 】			
	配点	3 点	2 点	1 点
	プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	☐ 実施されている	☐ 一部未実施	☒ 実施されなかった
	当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	☐ 達成した	☒ 一部達成した	☐ 達成しなかった
	進捗管理（定点観測等）は実施されているか	☐ 実施されている	☐ 一部未実施	☒ 実施されなかった
1 達成度	補足説明	・提案書を作成しながら行っており集約化に手間取っている。しかし、最近、活動が広く知られるようになり、所有者から声が掛かるようになってきた。 ・道を入れることに對し、未だ所有者の理解を得にくい。 ・ハーベスタにより林内に入り作業した事業地は効率がよかった。 ・定点観測については、準備はしているが整理されていない。 ・作業路の開設後の路面状況については、降雨後に調査している。また、作業路の開設により下流域への影響はない。		
	コメント	・別添フォローアップシート参照		
	【 自 己 評 価 】			
	配点	3 点	2 点	1 点
	木材生産の拡大が図られているか	☒ 図られている	☐ 一部図られている	☐ 図られていない
	森林環境（動植物等）の改善を確認できるか	☐ 大いに確認できる	☒ 一部確認できる	☐ 確認できない
	山地災害発生を抑止する工夫ができたか	☒ 工夫できた	☐ 一部工夫できた	☐ 工夫できなかった
2 成果	補足説明	・事業に取り組んだ結果、木材生産量は増加した。また、用材だけでなく、パルプ工場が近くにあるため、C材としての生産も増えた。 ・事業をすすめることで、林内に光が入り、健全な森林となるとともに、林内の下層植生も繁茂し、森林の保全機能も高まった。 ・特に未整備森林について、モデル事業の導入により33.6haの整備がされた。（H19 18.6ha H20 15ha見込み） ・林内作業路の幅員を狭く抑え、樹冠が空かないように開設しており、9月にこの地域をおそった集中豪雨に対しても問題はなかった。		
	コメント	・別添フォローアップシート参照		
	【 自 己 評 価 】			
	配点	3 点	2 点	1 点
	コストや業務量に見合った成果が得られたか	☐ 得られた	☒ 一部得られた	☐ 得られていない
	効率的な実施体制で推進されているか	☐ 推進された	☐ 概ね推進できた	☒ 推進できていない
	積極的に民間活力を活用しているか	☐ 活用できた	☒ 一部活用できた	☐ 活用できなかった
3 効率性	補足説明	・まだ事業地が小さいが、生産効率が高い一部の事業地については、採算性を確保できた。 ・重機が限られているため効率的に作業路開設ができない。 ・林内路網不適地については、架線集材を民間事業体により実施した。		
	コメント	・別添フォローアップシート参照		
	【 自 己 評 価 】			
	配点	3 点	2 点	1 点
	地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	☒ 反映している	☐ 一部反映している	☐ 反映していない
	プロジェクトの計画内容（箇所・時期等）は適当であったか	☐ 適当であった	☒ 一部適当でなかった	☐ 適当でなかった
	期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	☒ 養成された	☐ 一部養成された	☐ 養成されていない
4 妥当性	補足説明	・所有者の声を第一に考え事業推進している。（山を荒らさないように、負担が掛からないように） ・当初の現場は特に、不慣れなため技術不足で、採算性の確保が難しかった。 ・職員と作業員共に勉強しながら行っており、精進している。 ・当初、車輛系が可能な現場でも、スイングヤードで事業を実施することもあったが、できるだけ車輛系での作業ができるようになってきた。また、当初は重機を使って道から作業を行っていたが、可能であれば林内へ進入し作業をできるようになり、効率が上がった。		
	コメント	・別添フォローアップシート参照		

【 自 己 評 価 】					
配点		3 点	2 点	1 点	
5 発展性	補足説明	関係者（住民・所有者・従事者）の満足度は向上したか	☒ 向上した	☐ 一部向上した	☐ 向上しなかった
		選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	☐ 対応できた	☒ 一部対応できた	☐ 対応できなかった
		上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	☒ 余地がある	☐ 一部余地がある	☐ 余地がない
		・事業を実施した森林所有者には好評であり、地域の森林所有者には期待感をもって受け入れられている。 ・選定委員会や研修会では、事業ロットが小さく採算性をあわすことが難しく、集約化に手間取ることが指摘された。対応として財産区や比較的面積のまとまりが大きい所有者を中心に事業を進めると共に、細かい所有者でもまとめることで、事業ロットをやや拡大できた。 ・現在のシステムでは、積み卸し時にグラブがいないため作業のさらなる効率化が図れないため、フォワーダを横ダンプ形式にする等によって生産効率を向上する余地がある。 ・今までは、緩斜面での事業地を優先してきたが、今後は緩斜面以外でも路網を整備し、作業システムを対応していきたい。			
【 委 員 評 価 】					
	コメント	・別添フォローアップシート参照			

自 己 評 価（集計）				
評価集計	1 達成度	2 成果	3 効率性	
	4	8	5	
	4 妥当性	5 発展性	合計点	
	8	8	33	
	総合評価	B		
総合評価：A＝現状維持 B＝充実・拡大 C＝要改善 （配点区分：A＝4 5～3 6点 B＝3 5～2 6点 C＝2 5～1 5点）				
補足コメント	・担当している従事者としては、ゆっくりではあるが目指している方向へ進んでいる手応えを感じているため、このような評価となった。 ・当地域としては、道づくりに対して森林所有者等の理解が深まり、幅員3m以上の道が開設可能な現地が確保で出来れば、0.45サイズの重機を使ったシステムも今後導入して、揖斐地域全体へ広げていきたい。			

フォローアップ委員会による総評			
推奨方針（案）	☐ 現状維持	☒ 充実・拡大	☐ 要改善
コメント	・別添フォローアップシート参照		